

そのまま使える 病院英語表現 5000



著：仁木 久恵, 森島 祐子,
Nancy Sharts-Hopco

B 6 変型 頁 424 2006 年
定価 2,940 円 (本体 2,800 円 + 税 5 %)
[ISBN 978-4-260-00144-1] 医学書院刊

私の臨床留学は、セサミ・ストリートから始まった。留学直前の TOEFL では約 600 点を取り、大学院では英語の論文の読み書きもしていたが、ホームステイ先の子ども番組で、「さあ、口を開けてアーと言ってください」という人形に、初めて口腔を診察する際にどう言ったらよいのか教わった。それほど当時は、診療に直結した英語を学ぶ機会が乏しかった。研修医として採用される前、エクスターンとして指導医について回っている間に私のメモ帳は、診療の際にどんな言葉をかけるか耳で覚えたフレーズでいっぱいになっていった。

本書『そのまま使える病院英語表現 5000』には、当時私が書きとめたような臨床現場で実際に使われる英語表現が詰まっていて、その詳細さに驚いた。ポケットに入る大きさながら、診察室に入る患者さんを迎える言葉に始まり、診察の際にかけられる言葉や指示、処方する薬の用法、次回の診察予約まで、とにかく臨床のあらゆる場面が想定されて至れり尽くせりの文例が盛り込まれている。「たいへんでしたね」「何かあったら言ってくださいね。そばにいますから」といった、患者さ

んを慰め、励ますための表現や緊急時の確認事項など、通常の英語のテキストには書かれていないけれど、臨床的には不可欠な表現が満載されている。呼吸器内科専門医として、患者さんに寄り添う医療を提供している著者のお一人である森島祐子先生のきめ細かな日常診療が表されているように感じた。

本書には、医師が診察や説明の際に用いる英語はもちろんのこと、患者さんのプロフィールや生活背景を尋ねる質問など医師にも看護師にも役立つ表現、入院当日の病棟における注意事項やケアに関することなど看護師にとって必要な英語、医療保険の種類の確認など事務担当者が不可欠な情報を収集するための会話など、カバーしている領域は実に多岐にわたっている。これは、本当にお買い得である。

本書の特徴はまた、英語の聴き取りが苦手な医療者のために、質問の多くが“YES”または“NO”で答えられる形式になっていることであろう。コミュニケーションには、開放型の質問が大切というものの、限られた質問であっても意思の疎通が図れることは患者さんにとって心強いに違いない。この文例を集めれば、来院時に必要事項を記載してもらうフォームが作成できるし、診療科ごとに主訴や経過をあらかじめ記載してもらういわゆる予診票を作成することも可能である。近年、多くの医学部で臨床英語の授業に力を注がれているが、この教科書は実践に役立つ生きた英語を学ぶ優れたテキストになると考える。

もし私がこれから臨床留学するとしたら、この教科書ははずせない 1 冊となるであろう。